お金のことってムズカしい！

そうでもないかもよ？

全銀協の入門シリーズ

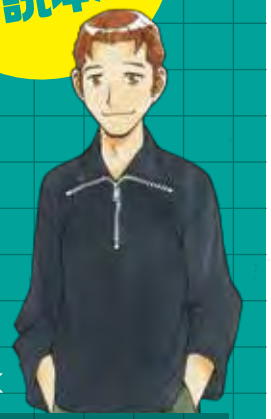
監修：ファイナンシャルプランナー 畠中雅子

もっと詳しく知りたい方はコチラ。 全銀協 検索

お金と賢く付き合うための

金融リスク

Q&A読本



INDEX

導入

金融商品の「リスク」とは？ P 01

EX

価格変動リスク/信用リスク P 03

為替リスク/カントリーリスク P 05

金利変動リスク/流動性リスク P 07

投資対象の分散で、リスクは抑えられる P 09

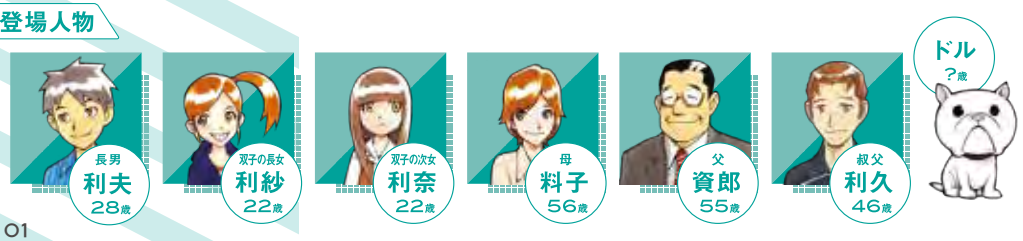
JBA JAPANESE BANKERS ASSOCIATION 一般社団法人 全国銀行協会

導入

さあ投資をはじめよう！でもその前に…

金融商品の「リスク」とは？

登場人物

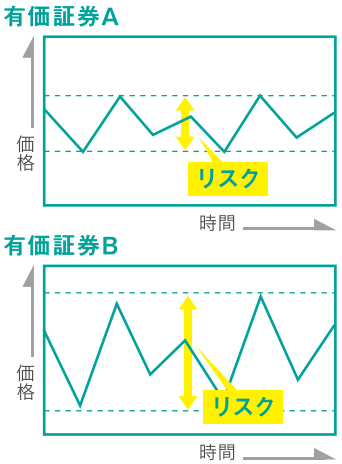


リスクとは「ぶれ」が大きいこと

リスク＝「損をすること」だと思っている方が多いかもしれません。確かに、損をする可能性もリスクの1つですが、本来リスクとは「不確実性」を表します。なぜなら、リスクの大きい金融商品は、損をする可能性が高い一方で、大きな利益を得られる可能性も持ち合わせているからです。「リスクが大きい金融商品」＝「利益を得る期待も大きい金融商品」ともいえるわけです。

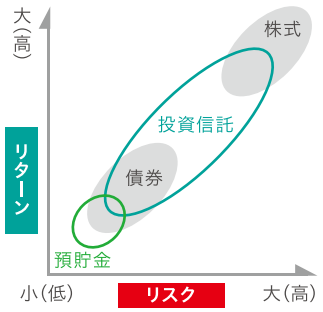
右図の価格変動の例では、Aは値下がり幅が小さいものの値上がり幅も小さく、対してBは値下がり幅も値上がり幅も大きくなっています。リスクとは、こうした「価格がぶれる可能性」を指すわけです。すなわち、Aはぶれが小さいためリスクが小さく、Bはぶれが大きいためリスクは大きくなります。

価格変動の例

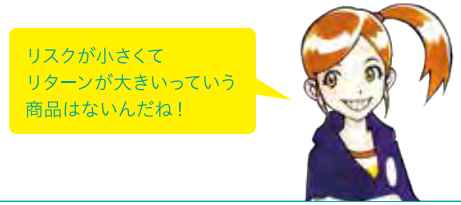


リスクとリターンの関係

商品によるリスクとリターンの関係（イメージ）



一般的にリターンが大きい商品は、リスクも大きい傾向にあります。また、その逆にリスクが小さい商品はリターンも小さいといえます。商品によってリスクの大きさは様々ですが、自分のライフプランや経済状況に合わせたものを選びましょう。



リスクとリターンの関係を知ることが賢いお金との付き合い方！

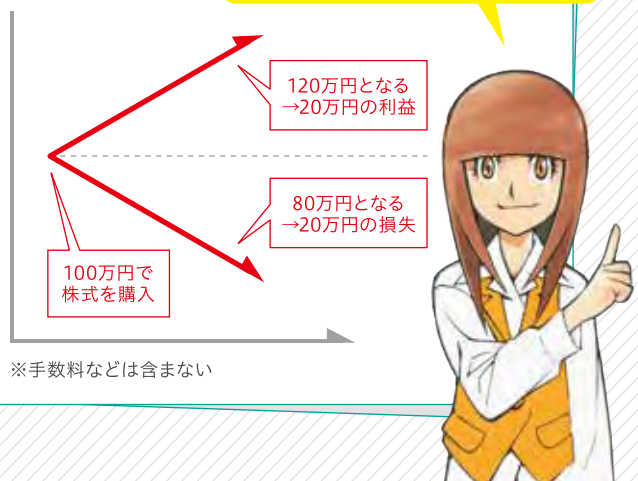
投資する資金の使途や資産額などによって、「リスク許容度」＝「どの程度リスクを受け入れられるか」は異なります。余裕資金が多い場合は、リスク許容度も高くなります。また、一般論として年齢が若い場合も、リスク許容度が高いといえます。若い人は資金の使途にもよりますが、お金を使うまでに時間があるため、長期運用によってリスクを抑えることも可能です。

Q 株式の価格のリスクって？

A 価格変動リスク 例 株式

株式のように売買価格が変動する金融商品には、「価格変動のリスク」があります。
購入後に値上がりすれば利益が得られ、逆に値下がりすると損失を抱えます。価格変動リスクのある金融商品は、価格が低いときに購入して、値上がりした後に売却するのが基本。なるべく損失を抑えるためには、公表されている様々なデータを比較検討して、割安銘柄を探すことが好ましいでしょう。

POINT
価格が変動するということは、買った後に値上がりすることも、値下がりすることもあるということ。割安なときを見極めるのが購入のポイントだね！



※手数料などは含まない

Q 信用が金利に関係するの？

A 信用リスク 例 社債

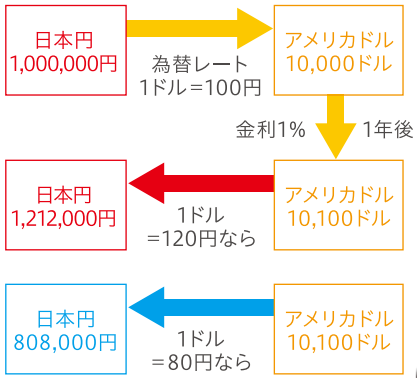
社債は会社が発行する借用証書です。社債を購入した場合、5年後や10年後などのあらかじめ決まった期日に購入代金が全額払い戻されることが約束され、社債を保有している間は決められた利息が受け取れます。ただし元本が戻ってくるのは、その会社が倒産しないことが前提。会社が倒産してしまえば、購入代金がほとんど戻ってこない可能性があります。これが「信用リスク」です。

POINT
外部の専門家が会社の安全性を調査してランク付けした「信用格付け」を発表しているよ。購入時には、こうしたものを参考に選ぶのがポイントだね！

Q 外貨で預金することのリスクって？

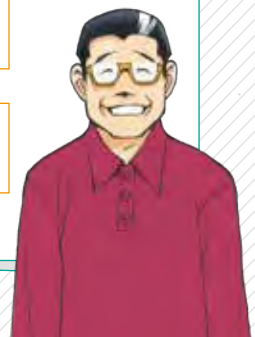
A 為替リスク 例 外貨預金

外貨で預金するとその通貨の国の金利がベースとなるため、低金利の日本で行う円建ての預金より高い金利が期待できることがあります。ただし払い戻すには、通常再び円に戻す必要があります。円に戻すときの為替レートが預入時より円安なら為替差益が得られますが、円高だと為替差損が発生します。こうしたレートの変動によるリスクが「為替リスク」です。



※為替手数料・税金は含まない

POINT
預入時より円高に動くと、損失が大きくなってしまうよ。

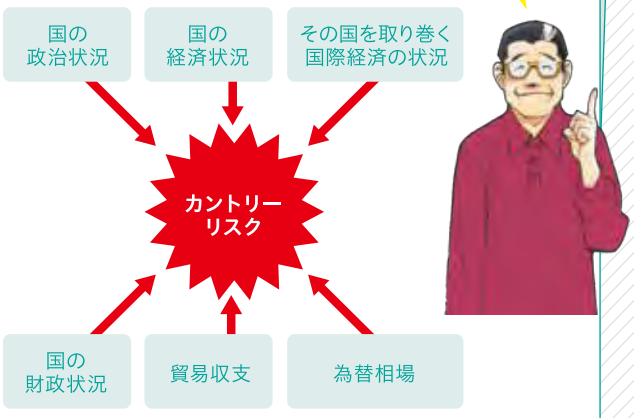


Q 国によって、リスクは異なるの？

A カントリーリスク 例 外国債券

外国債券とは、発行体・発行場所・通貨のいずれかが外国である債券を指します。購入の際は、為替リスクに加え発行体の「カントリーリスク」に気を付ける必要があります。これは、それぞれの国が抱える国内情勢や財政状況などの問題点の表れともいえます。その国の経済状況が混乱すると、中途換金時の価格が大きく下落したり、換金時に元本が戻らなくなる可能性があります。

POINT
いわゆる新興国の国債は金利が高いけど、それは高くしないと投資してもらえないから。国にも「信用格付け」があるから、参考にしよう！

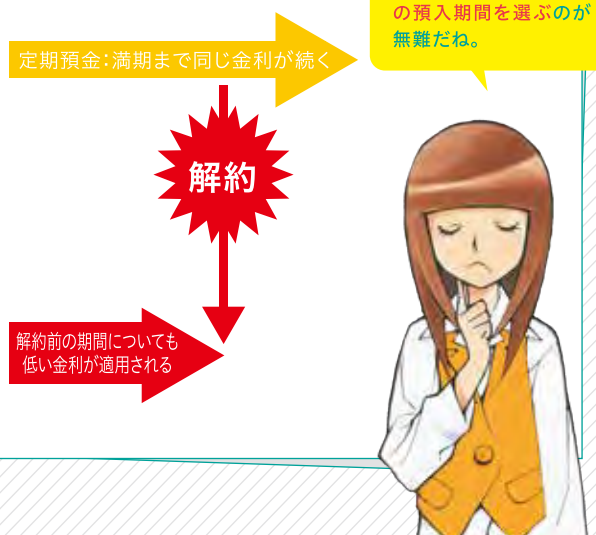


Q 元本保証ならリスクはないの？

Q お金が増やせる預金のリスクって？

A 金利変動リスク 例 長期定期預金

定期預金は1年、3年などの期間を決めて預ける金融商品です。銀行による元本保証商品である上、預金保険制度の対象なので、1,000万円までは元本割れリスクはありません。しかし、固定金利の長期定期預金には、預入時の金利が適用されるため、その後金利が上昇すると「儲け損なう」こともあります。このようなリスクを「金利変動リスク」といいます。



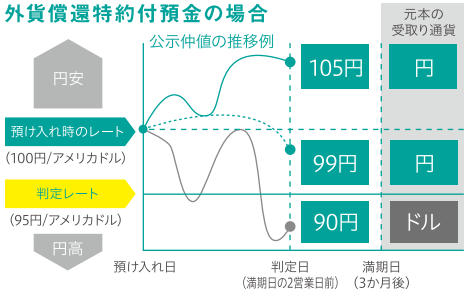
POINT 定期預金は満期まで金利が変わらないから、金利が低いときは短めの預入期間を選ぶのが無難だね。

A 流動性リスク 例 仕組預金

「仕組預金」とは、デリバティブと呼ばれる金融取引を利用した金融商品です。定期預金と同じように預入期間が決まっていますが、一般的な定期預金より高い金利設定になっています。外貨建ての仕組預金もあり、商品ごとに仕組みや金利設定は様々ですが、特徴は「流動性リスク」が大きい点。原則として途中解約はできず、できた場合でも違約金がかかり、元本割れするのが一般的です。

POINT 仕組預金は、余裕資金での購入が前提。また預け入れの前には、解約できるタイミングと、違約金について確認しよう！

外貨償還特約付預金の場合



※外貨での受取りになった場合は、元本はあらかじめ定められた判定レートにて外貨に転換されます。
※手数料などは含まない

判定日の公示仲値が、預け入れ時に定められた「判定レート」より円安(同一)の場合、元本及び利息は円での受取りになる。円高の場合、元本は外貨で、利息は円での受取りになる。

投資対象の分散で、リスクは抑えられる

様々なリスクをご紹介しましたが、
投資にリスクは付きものです。
そのリスクをなるべく小さくするためには、
「分散」が鍵となります。

リスクを減らすためには、
購入時期をずらしたりいろんな種類のものを
買うことが大切だね！

投資タイミングの分散

「価格変動リスク」を持つ金融商品は安い価格で購入したいものですが、実際には理想通りにはいきません。そこであえて安いときを狙わずに、毎回同じ金額分ずつを定期的に購入する方法があります。この投資手法は「ドルコスト平均法」と呼ばれ、定期的に買い続けることによって、高値で一度に買うことを避けやすくなる傾向があります。

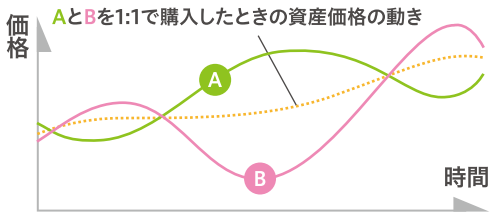
		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	合計	1株あたりの購入価格	1株2,500円ですべて売却したら
株式の価格		1,000円	1,250円	500円	800円	2,000円			
定期購入	購入株数	1株	1株	1株	1株	1株	5株	1,110円	6,950円の利益
	購入金額	1,000円	1,250円	500円	800円	2,000円	5,550円		
ドルコスト平均法	購入金額	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円	5,000円	900.9円	8,875円の利益
	購入株数	1株	0.8株	2株	1.25株	0.5株	5.55株		

※手数料などは含まない

投資対象の分散

金融商品には、預金のほかに株式や債券、外国の株式や外国の債券など様々なものがあります。投資のコツは、よさそうなものを1つだけ集中的に購入するのではなく、いくつかに分けて多くの商品を保有することです。多くの金融商品を組み合わせて保有すると、それぞれのリスクが平均化されて、全体的にはリスクを抑えやすい傾向になります。

分散投資のイメージ図



※手数料などは含まない

投資のタイミングと対象を分散してリスクの軽減を

資産運用においてもっとも大切なのは「分散投資」。投資商品を何種類にも分け、投資する時期を分散することが望まれます。また、最近は投資の最低単位が少額化し、投資金額が少ない個人投資家も分散投資が可能になってきています。さらに、購入した商品はそのまま保有するのではなく、投資環境が変化したら、状況を冷静に判断しながら資産の組み替えを行いましょう。資産の組み替えは、リスクを抑えるという意味でも重要です。